

メキシコ政治情勢（7月）

〈概要〉

【内政】

・20日付「レフォルマ」紙の世論調査におけるペニャ・ニエト大統領の7月現在の支持率は20%であった。

【外交】

・5日、ジョン・ケリー米国土安全保障長官が訪墨し、ペニャ・ニエト大統領及びビデガラ外相とそれぞれ会談した。

・5日、メキシコ市において墨グアテマラ閣僚によるエネルギー分野に関する会合が開催された。

・6日、ペニャ・ニエト大統領はマクロン仏大統領と墨仏首脳会談を行った。

・7日、ペニャ・ニエト大統領は、ハンブルグG20サミットの機会に、トランプ米大統領と首脳会談を行った。

・7日～8日、ペニャ・ニエト大統領はG20ハンブルグ・サミットに出席した。

・17日、ペニャ・ニエト大統領は大統領官邸にて、7月16日～18日の日程でメキシコを公式訪問したドゥアルテ・レベロ・デ・ソウザ葡大統領と首脳会談を行った。

・20日、ビデガラ外相はペルーを訪問し、クチンスキー・ペルー大統領と二国間の活発な関係、地域の議題について会談した。

・31日、日本を訪問中のビデガラ外相は、岸田文雄外相と日墨外相会談を行った。

〈内政〉

1. 大統領支持率に関する世論調査

(1) 大統領支持率及び不支持率

20日付「レフォルマ」紙の世論調査におけるペニャ・ニエト大統領の7月現在の支持率は20%（前回1月調査時12%）という結果であり、前回1月調査時に記録した過去最低の12%という記録から回復傾向を示した。また、不支持率は78%（同86%）という結果であった。

(2) 国家にとって最も深刻な問題は何か？

治安問題：53%

汚職問題：16%

経済問題：11%

(3) ペニャ・ニエト大統領の政策の項目別評価

教育政策：31%（前回1月調査時19%）

保健政策：31%（同17%）

雇用政策：16%（同8%）

治安対策：15%（同8%）

貧困対策：14%（同8%）

経済政策：13%（同4%）

汚職対策：9%（同4%）

〈外交〉

1. ジョン・ケリー米国土安全保障長官の訪墨

5日、ジョン・ケリー米国土安全保障長官が訪墨し、ペニャ・ニエト大統領及びビデガラ外相とそれぞれ会談した。

（1）ペニャ・ニエト大統領との会談

（ア）ペニャ・ニエト大統領は、大統領官邸においてジョン・ケリー米国土安全保障長官と会談した。同大統領は、墨米両国及び地域の強化に資するイニシアティブのために米国とともに引き続き取り組んでいくメキシコ政府の意思を表明した。

（イ）同大統領は、経済、移民、安全にかかる地域の課題に対する共同の取り組みの成功例として、6月15日～16日に開催された「中米の繁栄と治安に関する会議」について言及した。さらに、同大統領は、米政府による「幼少時に入国した若者たちのための強制退去措置の延期（DACA）」プログラムの継続決定を評価した。

（ウ）同会談には米国側からジェイコブソン駐メキシコ米大使、ポンペオCIA長官、コットン上院議員（アーカンソー州選出）が同席した。

（2）ビデガラ外相との会談

（ア）ビデガラ外相とジョン・ケリー国土安全保障長官が会談し、国境、移民、安全にかかる分野における墨米両国の優先事項に関して検討した。

（イ）同外相は、墨米国境を競争力を有し、両国が共有できる発展をもたらす地域とする重要性について改めて述べた。かかる観点から、人及び物の行き来を効率的、かつ安全に、そして、秩序だてて行うことを可能とする様々な国境のインフラ計画について意見交換が行われた。

（ウ）両者は、地域の安全のために墨米が共同で取り組んでいく必要性について確認し、中米地域の発展のための取り組みを深化させることで意見の一致をみた。

2. エネルギー分野にかかる墨グアテマラ閣僚会合

（1）5日、メキシコ市において墨グアテマラ閣僚によるエネルギー分野に関する会合が開催され、メキシコ側からは、ビデガラ外相、ミード大蔵公債相、コールドウェル・エネルギー相、ゴンサレス・メキシコ石油公社（PEMEX）総裁、エルナンデス・メキシコ電力公社（CFE）総裁が、グアテマラ側からはモラレス外相、ストラダ財務相、チャン・エネルギー鉱山相が出席した。

（2）両国閣僚は、6月5日～6日のペニャ・ニエト大統領のグアテマラ公式訪問の際に達した合意の一つであるエネルギー分野に関しフォローアップを行い、電力、石油、天然ガスを含む同分野における両国共同で行う取り組みの進捗具合を確認した。両国閣僚は、短期間で具体的な成果を挙げるために取り組みを進める必要性について意見の一致をみた。

3. 墨仏首脳会談

(1) 6日、ペニャ・ニエト大統領はマクロン仏大統領の招待に応じる形でパリを訪問し、同大統領と墨仏首脳会談を行った。同首脳会談において両国首脳は、墨仏の戦略的パートナーシップを強化することに対する両国の関心及び約束について述べるとともに、首脳間の活発な政治対話を継続することを再確認した。

(2) 両首脳は、継続的な政治対話、二国間貿易、及び、教育、研究、保健、イノベーション、文化、持続可能な開発の分野にかかる両国の活発な協力によって、墨仏関係は良好な状態にあることを確認した。その上で、両首脳は、仏墨戦略的評議会(Consejo Estratégico Franco-Mexicano)(注:2012年10月、ペニャ・ニエト大統領が選出次期大統領として訪仏した際にオランド大統領との間で設置に合意。官民有識者からなる。)の重要性及び有用性につき意見が一致し、同評議会が両国の友情及び協力関係に資する新しいアイデアを引き続き提供できるよう、同評議会を強化、刷新し続けることで合意した。

(3) 両首脳は、①政治・戦略対話、②国際社会の課題、③貿易の促進、④教育・高等教育・研究・イノベーション・文化にかかる協力の拡大という両国の優先項目における関係深化を模索するために計画された墨仏戦略的パートナーシップにかかる行動計画(2017年3月署名)に対する両国の責任を確認した。

(4) ペニャ・ニエト大統領は、メキシコ-EU間の既存の法的枠組みの近代化プロセスにおいて、メキシコはフランスの支持を期待する旨述べた。

4. 墨米首脳会談

(1) 7日、ペニャ・ニエト大統領は、ハンブルグG20サミットの機会に、トランプ米大統領と首脳会談を行い、墨米二国間の経済アジェンダにおける優先テーマについて意見交換を行い、両国経済及び北米地域社会に目に見えた恩恵をもたらすことを目的に、NAFTAを近代化することの重要性について強調した。

(2) 両大統領は、移民問題、治安、経済発展といった墨米二国間及び地域にとっての課題に関し、両国政府閣僚による数ヶ月間にわたる継続的な対話を通じた取り組みを評価した。

(3) 移民問題に関し、両大統領は、農業セクターにおける短期労働プログラムを促進するための新しい手段を模索することで合意した。

(4) 両大統領は、国際犯罪組織のネットワークの現状分析の進捗を評価した。その上で、同問題に関しては、墨米共通の責任という原則に基づき、墨米国境の両側において総合的な戦略に則り対応することが必要であるということを確認した。

5. ペニャ・ニエト大統領のG20ハンブルグ・サミット出席

7日～8日、ペニャ・ニエト大統領はG20ハンブルグ・サミットに出席した。

(1) サミットにおける各議題

(ア) テロ対策

メキシコは如何なる形態・表現によるテロも非難する。テロリズムと国際犯罪組織の違

いを明確なものとし、後者の撲滅のために、資金源を断つ等、各国が協力することが必要である。

(イ) 経済成長・貿易

メキシコは自由貿易に開かれた国という姿勢を固持し、WTOが規定する規則に基づき強固かつ透明な多角的貿易体制を支持する。

(ウ) 開発・気候変動・エネルギー

メキシコは、気候変動の問題に対応するための唯一の方法であるパリ協定の実行に向けた支援を表明した。

(エ) アフリカ・移民・保健

アフリカの開発に資するイニシアティブを推進する独、EU加盟国諸国等の取組を評価。

(オ) デジタル化・女性・雇用

経済競争力を強化し、より包摂的な経済を築くために、我々が現在生きるデジタル化時代を理解し、それに適応することの必要性が強調された。

(2) 二国間首脳会談

(ア) 墨米首脳会談

ペニャ・ニエト大統領は、G20ハンブルグ・サミット終了後に行った記者会見において、トランプ米大統領との首脳会談について、①NAFTAの再交渉に関し、トランプ大統領自身も述べたとおり、墨米加三カ国の利益となるものとするために進めて行くという意味が示された、また、②良好な墨米関係を構築するという意思が確認されたものとして評価している旨述べた。

(イ) ペニャ・ニエト大統領はこの他、G20ハンブルグ・サミットの機会に西、伊、加、印の各首脳と会談を行った。

6. ドゥアルテ・レベロ・デ・ソウザ葡大統領の訪墨

(1) 17日、ペニャ・ニエト大統領は大統領官邸にて、7月16日～18日の日程でメキシコを公式訪問したドゥアルテ・レベロ・デ・ソウザ葡大統領と首脳会談を行った。葡大統領による18年振りの今次メキシコ訪問は、近年発展してきた墨葡関係が最高点に達したことを意味するものである。

(2) 今次ソウザ葡大統領訪墨における合意事項

(ア) 墨葡は、二国間貿易促進のために共同で取り組んでいく。

(イ) 墨葡両国は、二国間関係の新たな機会を有する分野を活用していく。そのために、今次ソウザ葡大統領の訪墨には、ポルトガルの企業団が同行した。

(ウ) ポルトガルは、メキシコとEUとの間で行われているグローバル協定 (Acuerdo Global) の交渉プロセスを支持する。

(エ) メキシコにおける葡企業による投資、また、墨企業及び墨製品のポルトガルにおけるプレゼンス向上を促進する。

(オ) 墨葡二国間の観光を促進する。

(カ) 科学・技術分野における二国間協力、及び学術・文化交流を促進する。来年のグア

ダラハラ国際図書フェアにポルトガルが招待される。

7. ビデガライ外相のペルー訪問

(1) 20日、ビデガライ外相はペルーを訪問し、クチンスキー・ペルー大統領と二国間の活発な関係、地域の議題について会談した。

(2) また、ビデガライ外相は、アラオス副大統領と会談し、ハイレベル対話の継続、及び、墨ペルーの戦略的関係を引き続き推進することにメキシコは関心を有していることについて改めて述べた。

(3) 第二回墨ペルー戦略的パートナーシップ会議

(ア) ビデガライ外相は、ルナ・ペルー外相とともに、二国間の様々な分野における取組みを評価し、既存の二国間関係を強化するとともに、新しい協力の分野を設定するメカニズムである第二回墨ペルー戦略的パートナーシップ会議（Consejo de Asociacion Estrategica Mexico-Peru）の議長を務めた。

(イ) 同会議において、政治、経済、協力にかかる二国間関係の評価が行われた。また、第二回墨ペルー市民団体フォーラム及び移民・領事にかかる協力グループの活動成果が同会議に提出された。

(ウ) 両外相は、同会議の最終議事録及び2017-2018年領事協力プログラムに署名した。同協力プログラムによって、第三国における自国民の対応に関するグッド・プラクティスの情報交換が強化される。また、両外相は、消費者保護にかかる二国間の合意文章署名の証人となった。

(4) ビデガライ外相は、今日のペルーの領土内で不法な形で盗まれ、メキシコで発見された先コロンブス期を起源とする168の文化財の返却を約束した証書を、ルナ・ペルー外相に手渡した。

(5) ビデガライ外相は、メキシコが招待されたリマ国際ブックフェアの開会式に出席した。

8. 日墨外相会談

(1) 31日、日本を訪問中のビデガライ外相は、岸田文雄外相と日墨外相会談を行った。同会談において、両外相は、日墨の良好な二国間関係及び両国政府の政治対話の重要性について確認した。また、両外相は、二国間のハイレベル相互訪問の増加、多数の議会間交流及び複数の日墨共同の協力プロジェクトが、両国の戦略的同盟関係を強化してきた旨評価した。

(2) 両外相は、両国政府の市場開放及び自由貿易に対するコミットメントを確認した。両外相は、215億ドルを超えている傑出した二国間経済関係の重要性を強調した。日本は、メキシコにとって世界で3番目の貿易相手国であり、また、アジアで唯一の自由貿易協定を有する国である。さらに、両外相は、日本によるメキシコへの前例のない直接投資の増加を評価した。この投資により、今日、1,000社以上の日本企業がメキシコで操業している。

(3) 両外相は、日墨が属するそれぞれの地域情勢について意見交換を行った。ビデガラ
イ外相は、北朝鮮による弾道ミサイル発射をメキシコは非難する旨再度述べ、メキシコの
日本国政府及び国民に対する連帯の意思を改めて表明した。

(4) 両外相は、2018年には日墨修好通商条約締結130周年を迎えることを強調し
た。同条約によって、メキシコは日本にとって最初の平等条約を署名した国となり、日墨
二国間関係の新しい時代が開始された。